

秋田市食品ロス実態調査報告書

令和4年7月1日版

1 実施概要

■実施日時	令和4年5月26日（木）27日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ14名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・ 調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> 【5月26日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋） 【5月27日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋） ・ 調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約138kgとした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・ 調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・ 食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・ 手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 387.21kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.9kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 85.85g、②東部地区は 18 袋で 52.23kg、③西部地区は 11 袋で 38.17kg、④南部地区は 16 袋で 75.43 kg、⑤北部地区は 24 袋で 106.86 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 28.67 kg であった。

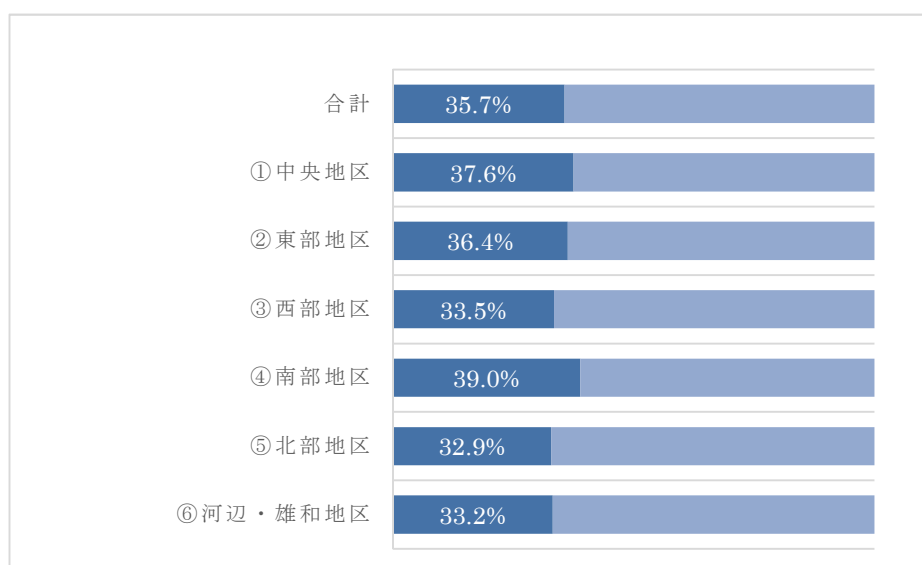
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	387.21	3760	3.9	37.6
① 中央地区	23	85.85	815	3.7	35.4
② 東部地区	18	52.23	610	2.9	33.9
③ 西部地区	11	38.17	355	3.5	32.3
④ 南部地区	16	75.43	650	4.7	40.6
⑤ 北部地区	24	106.86	1025	4.5	42.7
⑥ 河辺・雄和地区	8	28.67	305	3.6	38.1

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 35.7%、地域別に見ると④南部地区が最も高く 39.0%、次いで①中央地区の 37.6%、②東部地区の 36.4%、③西部地区の 33.5%、⑥河辺・雄和地区の 33.2%、⑤北部地区の 32.9%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	387.21	138.16	35.7%	64.3%
①中央地区	85.85	32.26	37.6%	62.4%
②東部地区	52.23	19.00	36.4%	63.6%
③西部地区	38.17	12.79	33.5%	66.5%
④南部地区	75.43	29.39	39.0%	61.0%
⑤北部地区	106.86	35.19	32.9%	67.1%
⑥河辺・雄和地区	28.67	9.53	33.2%	66.8%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

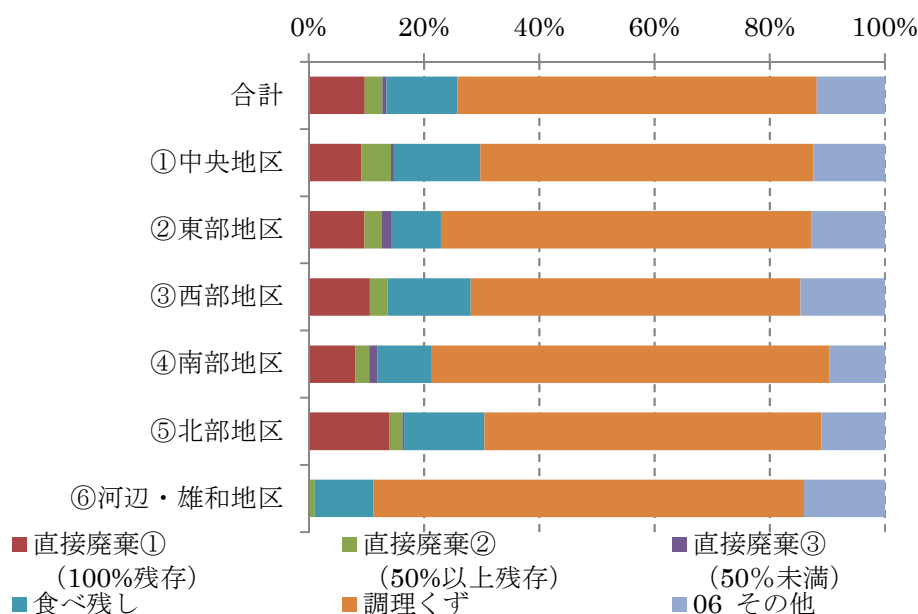
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 3）、6地区の合計では25.8%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く30.5%、次いで①中央地区の29.8%、③西部地区の28.1%、②東部地区の23.0%、④南部地区の21.2%、⑥河辺・雄和地区の11.2%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、⑤北部地区の食品ロスの割合は、⑥河辺・雄和地区よりも19.3ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち9.7%を占めており、⑤北部地区で14.0%と高く、次いで②西部地区が10.6%、②東部地区が9.7%、①中央地区が9.1%、④南部地区が8.1%、⑥河辺・雄和地区が0.0%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では12.3%、①中央地区が15.0%と高く、次いで、③西部地区の14.5%、②東部地区が最も低く8.7%となっている。

図表 3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	25.8%	9.7%	3.1%	0.7%	12.3%
①中央地区	29.8%	9.1%	5.1%	0.5%	15.0%
②東部地区	23.0%	9.7%	3.1%	1.5%	8.7%
③西部地区	28.1%	10.6%	3.0%	0.0%	14.5%
④南部地区	21.2%	8.1%	2.4%	1.5%	9.2%
⑤北部地区	30.5%	14.0%	2.3%	0.3%	14.0%
⑥河辺・雄和地区	11.2%	0.0%	1.0%	0.0%	10.2%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

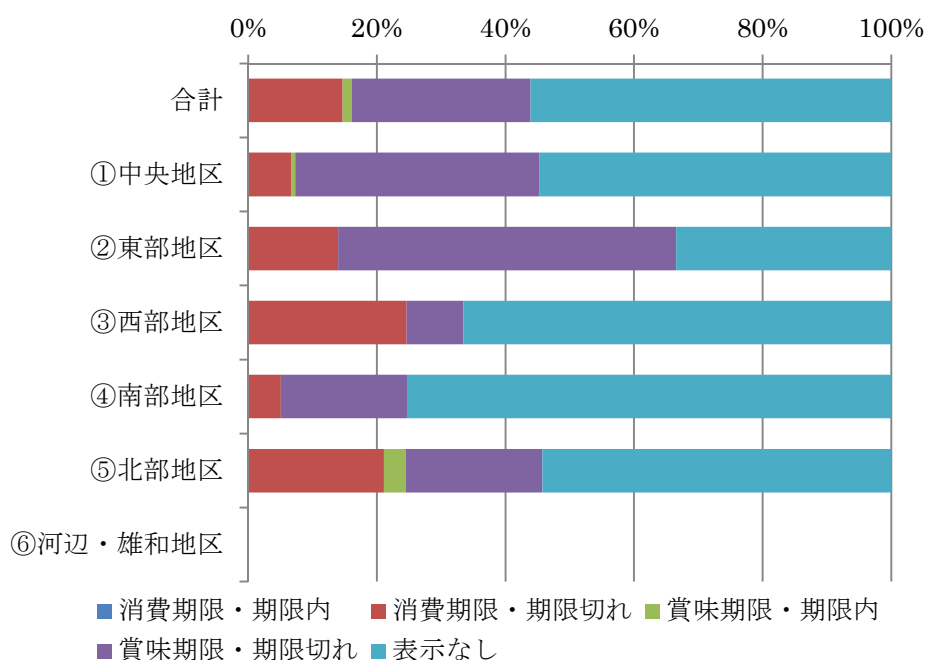
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く56.1%であり、消費期限の表示があったものは14.7%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは29.2%（期限内が1.4%、期限切れが27.8%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、②西部地区が24.6%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち1.4%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く3.5%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	14.7%	1.4%	
① 中央地区	0.0%	6.6%	0.7%	37.9%	54.8%
② 東部地区	0.0%	14.0%	0.0%	52.6%	33.4%
③ 西部地区	0.0%	24.6%	0.0%	8.8%	66.5%
④ 南部地区	0.0%	5.0%	0.0%	19.7%	75.3%
⑤ 北部地区	0.0%	21.1%	3.5%	21.2%	54.3%
⑥ 河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

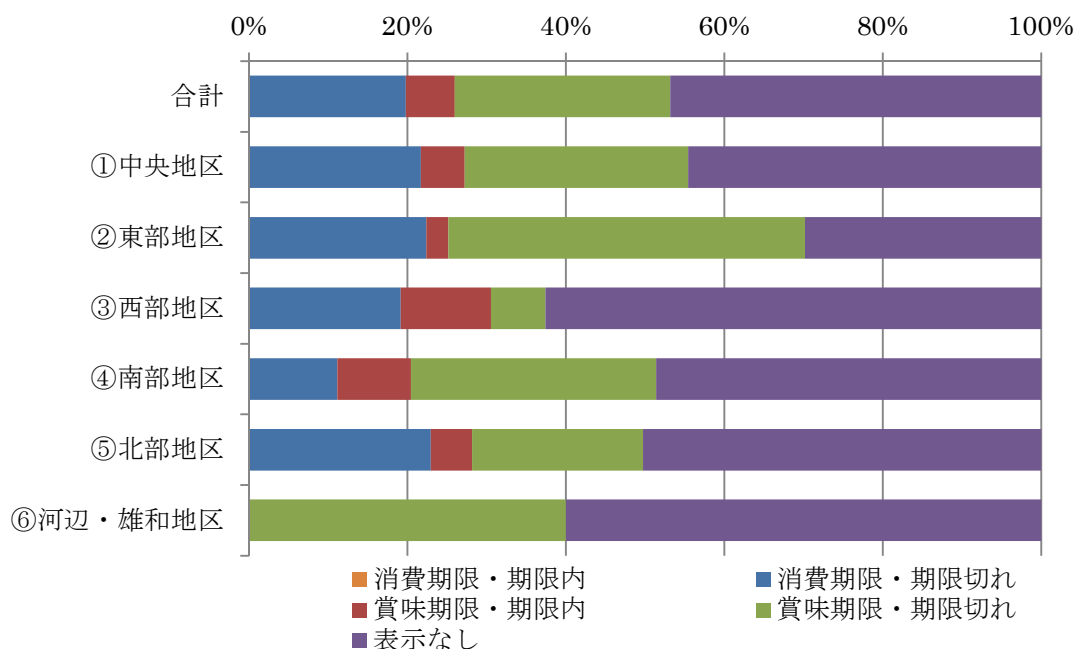
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く46.8%であり、消費期限の表示があったものは19.8%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは33.4%（期限内6.2%、期限切れ27.2%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」となっており、⑤北部地区が22.9%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち6.2%、地区別に見ると③西部地区が最も高く11.4%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	19.8%	6.2%	27.2%	46.8%
① 中央地区	0.0%	21.7%	5.6%	28.2%	44.5%
② 東部地区	0.0%	22.4%	2.8%	45.0%	29.8%
③ 西部地区	0.0%	19.1%	11.4%	6.9%	62.6%
④ 南部地区	0.0%	11.1%	9.3%	31.0%	48.6%
⑤ 北部地区	0.0%	22.9%	5.2%	21.6%	50.3%
⑥ 河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和3年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると46.8g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が24.5g/人・日、食べ残しが22.3g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

